

中国語の学習状況に関する報告

高橋あすみ

みなさんこんにちは、高橋あすみです。山西大学に留学して早半年が経過し、レポートは今回で6回目となりました。中国留学が始まって以来、この半年間は毎日勉学に励み、様々な活動に参加し、新しい文化や常識に触れ、スケジュールに空きがないほど非常に充実した日々を過ごしました。今になってこの半年を振り返っても、6ヶ月という時間は瞬く間に過ぎてしまったように感じ、時の流れの早さに驚くばかりです。

そんな2月でしたが、前回のレポートでも簡単に触れたように2月17日は旧暦の新年にあたり、中国では一年で最も重要なイベント、春節を迎えました。ご存知の方も多いとは思いますが、中国では新暦の元旦よりも旧正月を祝う習慣が深く根付いており、世界最大規模の帰省ラッシュ「春運」が行われることでも有名です。家族の絆を再確認し、新年の幸福を願う春節は、中国文化の核心に近い要素が凝縮されており、単なる祝日を超えた文化的側面で非常に重要な役割を果たすイベントと言えるでしょう。山西省はもちろん中国全土に家族団欒の和気藹々とした明るい雰囲気が出、街中の公共エリアや山西大学内でも、至る所で華やかな装飾とイルミネーションが施されました。街中が煌びやかにライトアップされる情景は、中国の人々がこの祝日を本当のお祭りのように盛大に祝う雰囲気を身をもって一層強く感じさせます。また、そんな春節の雰囲気は春節当日から数えて15日目にあたる3月3日まで続いていました。春節当日から15日目にあたる日付は毎年元宵節と呼ばれ、いわゆる春節のフィナーレのような役割を担っています。この元宵節には、地方によって異なりますが、元宵または湯円と呼ばれる餅米を丸めて作られた白玉団子のような軽食を食べる習慣があり、太原では老舗店名物の手作り元宵を買い求める人々が長い列をなす印象的な光景が見られます。

さて、春節に代表された今月のレポートでは、留学から6ヶ月を区切りに、この半年間でどの程度中国語が上達したのか、どのような水準に達することができたのかという中国の学習状況に関する経過報告をしたいと思います。

去年の9月から中国での生活が始まり、半年間現地で母国語には全く触れず、中国語に囲まれながら生活し、授業でも授業外でも毎日中国語を学ぶという中国語学習のためには究極だと言える環境下で、実際にどれほど中国語が上達したのか、気になっていらっしゃる方も少なくないと思います。結論から述べると、今回私は、中国政府認定の中国語検定であるHSKの5級を1月下旬に受験し、その結果8割以上の得点率で合格することができました。実際には

5, 6 級に合否は表記されないのですが、6 割以上のスコアで 5 級の能力を有していると判定されるようです。私個人としては、得点率 9 割を目指して受験に挑んだため、今回の結果は目標に届かず少し残念なものでもありましたが、これまでの自分の学習の成果を明確な数字として知ることができ、目で見られる形で自ら上達を確認できたことに安心すると同時に、今後は今まで以上により一層勉強に励もうと学習意欲が掻き立てられました。

この HSK5 級は、日本の HSK 公式受験サイトでは「中国語の新聞や雑誌が読めるだけでなく、中国の映画やテレビも観賞でき、さらに、中国語でスピーチすることができる」ことが求められるレベルと記載されています。しかし実際にほとんどの人が重視しているのは、試験の合否よりもどの程度実用可能かという点ではないでしょうか。もう少し詳しく、HSK5 級に合格した水準の中国語力について実体験をもとに一例としてお話ししたいと思います。中国語の実践力については個人差がもちろん存在すると思いますが、HSK5 級に合格した時点での私の感覚では、“スピーキング、リスニング、ライティング、リーディングの 4 技能いずれにおいても、自身の語彙と知識を用いてある程度のことは不自由なく表現・理解することが可能なため、日常生活の中で困ることはほとんどないが、母語話者同士の会話や学術的な話や何らかの専門分野が関わる話になると難易度は高く感じる”というのが現状です。特に中国人同士で話すネイティブの中国語はスピードもとても速く、先生やテストのリスニングのようにはっきりと発音はされることはないので聞き取りはとても難しく感じます。専門的な話題の場合は話の内容は 60%ほど理解することができ、運良く重要な専門単語などを聞き取ることができれば 70%ほどの理解度に達することもあります。半年間で中国語の全てを完璧に使いこなせるようになるというわけではもちろんありませんが、それでもやはり、中国に来た当時、私の中国語が入門レベルの HSK2 級程度（一応 4 級も合格していましたが、当時はほとんど実用できるような語学力は身につけていませんでした）しかなかったことを考慮すると、その進歩はかなり大きく、上達の速度も凄まじいものではないかと思えます。もちろん留学すれば勝手に語学力が上達するわけではないので 5 級の取得は簡単なものではありませんが、授業や日常生活、その他の文化体験活動や長期間の自習を含め中国語漬けの環境で十分に勉強に集中し HSK5 級レベルまで到達できたことは間違いありません。山西省にきて中国の文化と生活の中に身を置きながら、この環境で中国語を勉強できることは、学習面はもちろん、学習や語学とは関係が薄い側面も含め、あらゆる面で極めて大きな成果や成長につながっていると、より一層実感しています。また、今回の留学が終了する頃には HSK6 級の取得を目指しているので、目標達成のために今後残りの留学期間も悔いのないようより勉学に注力していきたいと考えています。

今月のレポートも、ここまでお読みいただきありがとうございます！中国では3月から日本より少し早く新学期が始まりました。来月はこれまであまり詳しく紹介できていなかった普段の基本的な生活やスケジュールについて、日本との差異や新学期の活動の様子を踏まえながら紹介したいと思います。それではまた来月のレポートでお会いしましょう！



山西大学正門の春節に合わせたライトアップ。元宵節まで期間限定で見られる特別な光景です。



寮の玄関にも新年の装飾が施され、みんなで新年を祝っている雰囲気を感じられます。

听力	54
阅读	69
写作	65
総得点	188
判定	合格

Test Date
2025-12-07

Total Score
276/300

Listening Score
91/100

Reading Score
100/100

Writing Score
85/100

Passing Status
Pass

HSK5 級を受験する前に、4 級を受け直しました。左が留学前、右が留学後の結果です。体感した難易度もかなり変わっており、自身の語学力が大きく伸びたことを実感しました。